

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

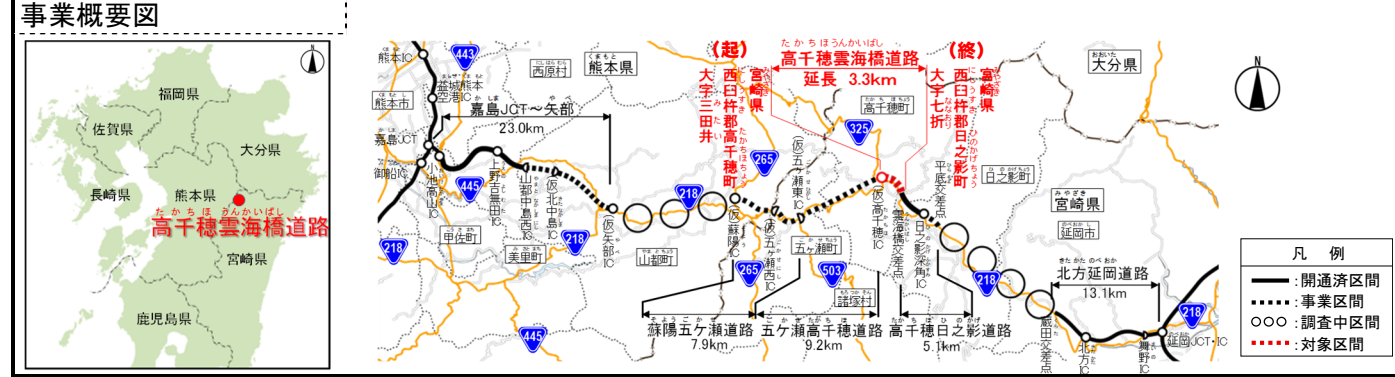
事業の概要

事業名	一般国道218号 (九州横断自動車道延岡線)高千穂雲海橋道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井 ～宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折	延長	3.3km		

事業概要
九州横断自動車道延岡線は、熊本県上益城郡御船町を起点として、宮崎県延岡市に至る計画延長約9.5kmの高規格幹線道路である。当該道路は、宮崎県西臼杵郡高千穂町～宮崎県西臼杵郡日之影町に至る延長約3.3kmの道路である。

事業の目的、必要性
本道路は、現道の課題箇所や事故多発箇所を回避し、災害時の支援道路として信頼性の高い高速ネットワークを形成するとともに、五ヶ瀬町から第3次救急医療施設までの速達性が向上し、救急医療活動を支援する。また、現道の老朽橋による通行止めリスクを回避し、地域産業を支える木材の安定的な輸送のための代替路を確保するものである。

全体事業費 約160億円 計画交通量 約11,000台/日



関係する地方公共団体等の意見

【宮崎県知事】
一般国道218号は、熊本県熊本市を起点とし、宮崎県高千穂町を経由し、宮崎県延岡市を終点とする路線であり、九州横断自動車道延岡線（高速自動車国道）に並行して、九州中央を横断し、九州の東西の産業、経済、文化等の交流連携を担う幹線道路であります。
また、当路線は第1次緊急輸送道路に指定されるなど、地域住民の生活に不可欠な生命線道路として、地域の安全・安心の確保や産業振興を図るうえで重要な役割を担う幹線道路でもあります。
しかし、当路線の高千穂町付近には、特に平面・縦断線形不良箇所が連続して存在し、また、事故による通行止めなどにより、たびたび交通に支障を来しているなど、脆弱な路線でもあります。加えて、地質的に脆弱な地帯をトンネルで通過するため、設計や施工方法の選定、施工管理に高度な技術力が必要とされます。
つきましては、事業中である一般国道218号高千穂日之影道路、一般国道218号五ヶ瀬高千穂道路、一般国道218号蘇陽五ヶ瀬道路に引き続き、当該区間においても、高速自動車国道に並行する一般国道の自動車専用道路として、直轄事業による実施をお願い申し上げます。
なお、本県としましては、高千穂IC（仮称）取り付け部に近接する、国道325号と町道猿渡線が接続する交差点の交通安全対策、高千穂IC（仮称）の接続道路である国道325号の平面線形不良箇所（高森側）の視距改良、国道325号と国道218号の交差点である総合公園前交差点のICアクセス強化や町内周遊性向上のための交通対策、周辺自治体と連携した建設残土等の土捨て場（仮置き場）の調整・確保、用地買収における国・県・町で連携した取り組み、埋蔵文化財の調査体制の確保、地籍調査の推進等について地元調整を行って参ります。
また、標記区間の供用後の交通状況の変化を見越して必要となる交差点改良等の対策を実施します。
最後に、開通直後から直ちにストック効果が最大限発揮させるための地域の取り組みを一層推進してまいりますので、格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件

- 費用対便益：便益が費用を上回っている。
- 手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H30.2）

事業評価結果

費用対便益分析	B/C	1.7 (1.2)	総費用 891億円 (事業費: 792億円 維持管理費: 99億円)	総便益 1,526億円 (走行時間短縮便益: 1,297億円 走行経費減少便益: 144億円 交通事故減少便益: 85億円)	基準年 令和2年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5 (交通量 -10%)	B/C=1.9 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.6 (事業費変動 +10%)	B/C=1.9 (事業費変動 -10%)	
		事業期間変動	B/C=1.5 (事業期間変動 +20%)	B/C=1.8 (事業期間変動 -20%)	

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-
事故対策		◎	・現道の線形が厳しい箇所の回避による事故率低減など、災害時等の救急支援活動等における信頼性の高い高速道路ネットワークを形成。 〔現道課題箇所の回避〕 平面線形が厳しい箇所：【現況】4箇所 → 【整備後】0箇所 縦断線形が厳しい箇所：【現況】2箇所 → 【整備後】0箇所 〔交通事故の削減〕 死傷事故率：【現況】273.2件/億台 [※] → 【整備後】38.1件/億台 [※]
歩行空間		-	・注目すべき影響はない
社会全体への影響	住民生活	◎	・五ヶ瀬町から県立延岡病院までが60分圏域内（約58分）となり救急搬送の速達性が向上。 〔搬送時間の短縮〕 五ヶ瀬町役場⇄県立延岡病院：【現況】73分 → 【整備後】58分(15分短縮)
	地域経済	◎	・大規模災害による被災時等の国道218号雲海橋のリダンダンシーを確保。 〔代替路の確保〕 細島港までの迂回距離：【迂回時】L=202km(234分) → 【整備後】L=62km(62分)
	災害	-	・注目すべき影響はない
	環境	-	・注目すべき影響はない
	地域社会	-	・注目すべき影響はない
事業実施環境		○	・宮崎県知事より、高千穂～雲海橋交差点間の早期事業化を要望

採択の理由

費用便益比が1.7(1.2)と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
高千穂雲海橋道路の開通により、現道の課題箇所や事故多発箇所を回避し、災害時の支援道路として信頼性の高い高速ネットワークを形成するとともに、五ヶ瀬町から第3次救急医療施設までの速達性が向上し、救急医療活動を支援する。また、現道の老朽橋による通行止めリスクを回避し、地域産業を支える木材の安定的な輸送のための代替路を確保するなど、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※B/Cの上段の値は嘉島JCT～延岡JCT・ICを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業箇所）

事業評価結果（防災機能）

評価項目	地域の課題	関連する計画
事業の必要性 本道路は、現道の課題箇所や事故多発箇所を回避し、災害時の支援道路として信頼性の高い高速ネットワークを形成するとともに、五ヶ瀬町から第3次救急医療施設までの速達性が向上し、救急医療活動を支援する。また、現道の老朽橋による通行止めリスクを回避し、地域産業を支える木材の安定的な輸送のための代替路を確保するものである。		
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・国道218号は、政府が定める「緊急輸送ルート」に指定されており、南海トラフ地震発生時における宮崎県北部、大分県南部地域の想定被災者数約14万人を支援する重要な路線。 ・当該区間は、平面・縦断線形が厳しい箇所が連続するなど走行性が低い上に、死傷事故率が高く（273.2件/億台^車）、事故による通行止めなど信頼性が低い状況。 	※宮崎県国土強靱化地域計画(R2.5改訂) ・地震災害時の「緊急輸送を確保するため必要な道路」であり、災害発生時の救助・救急・医療・消火活動及び緊急物資供給等に必要 な人員及び物資等の輸送を担う緊急輸送道路の整備促進を図る必要 がある。 ・緊急輸送等のための交通インフラの確保や高速道路のミッシングリンク解消のため、東九州自動車道及び九州中央自動車道の事業中区間の早期完成と未事業化区間の早期事業化及び暫定二車線区間の四車線化を要望していく必要があるとともに、高規格幹線道路と一体となって、地域構造を強化する役割を担う地域高規格道路の整備促進を図る必要がある。
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・五ヶ瀬町から延岡市にある第3次救急医療施設への救急搬送は、高速ネットワークのミッシングリンクにより60分圏外（約73分）となっている。 ・中山間地域で高次医療サービスが低く、高次医療施設への速達性、アクセス性が課題。 	※未来みやざき創造プラン(R1.6改訂) ・東九州自動車道の宮崎市以北については、整備が順調に進み、平成28年（2016年）4月に宮崎市から北九州市までつながりました。さらに、宮崎市以南の東九州自動車道や九州中央自動車道の整備も進展しつつあり、このことは、「命の道」として、救急医療やへき地医療の環境改善に役立つとともに、災害時の救援・救助や物資の輸送など防災対策の面でも有効であり、県民生活の安全・安心の確保につながっています。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県は全国4位、当該地域は県内3位の木材生産地であり、細島港等から全国へ出荷。木材運搬用大型車等の通行により、既設橋梁などへの負荷が著しい状況。 ・雲海橋は建設後50年におよぶことから、大規模災害時には通行止めリスクが高く、代替路もないことから広域迂回が発生するなど、物流ネットワークが課題。 	※未来みやざき創造プラン(R1.6改訂) ・交通・物流ネットワークの整備と効率化の推進のため、高速道路ネットワークは、生産性を高めて経済を成長させる社会基盤であることから、東九州自動車道、九州中央自動車道の未開通区間の整備促進及び暫定二車線区間の早期の四車線化、高速道路の利活用促進に向けて、関係各県や経済界と連携して取り組みます。
その他		

事業の有効性 ・当該事業の実施により、脆弱度の評価がCランク→Bランクに改善するとともに、災害時の防災機能が強化される。 ・また、本事業において、現道の課題箇所や事故多発箇所を回避し、災害時の支援道路として信頼性の高い高速ネットワークを形成するとともに、五ヶ瀬町から第3次救急医療施設までの速達性が向上し、救急医療活動を支援する。また、現道の老朽橋による通行止めリスクを回避し、地域産業を支える木材の安定的な輸送のための代替路を確保するなど、有効性の高い事業と評価する。									
道路ネットワークの防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度（防災機能ランク）		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	熊本空港	延岡市	25 〔18〕	0.55 (C) 〔0.29〕 (B)	0.21 (B) 〔0.28〕 (B)	▲322.7 〔▲58.7〕	0.21 〔0.01〕	0.45 〔0.01〕	◎

事業の効率性 ・手続きの完了 : 計画段階評価手続き完了 (H30.2)
--

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は嘉島 JCT～延岡 JCT・IC を対象とした場合、
 下段 () 書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果